

家族のタイプ お宅はどちら？

子どものための本が家に50冊以上ある（雑誌、電子書籍ふくむ）。

Yes!

No!

ゲーム・スマホ・動画サイトは見せないか、親が管理している。

親が休みの日は、子どもと遊ぶか、習い事に連れて行くことが多い。

学校や塾の宿題以外の教材を購入し、子どもに習慣的にやらせている。

子どもの習い事や部活の発表会・試合の応援に、年3回以上行く。

将来、子どもについて欲しい職業や、入学してほしい学校があり、それを子どもに伝えている。

子どものころは勉強するより遊んだりスポーツするほうが大切だと思う。

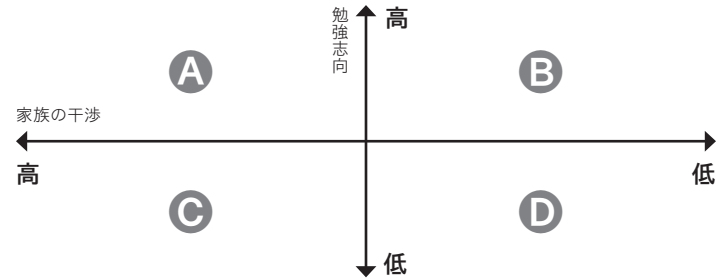
子どもの学校の友だち関係や好きな異性の名前を把握している。

A

B

C

D



A	<p>教育熱心！ 目指せ東大イケイケファミリー 親の意識が高く、子どもにも親の価値観が伝わっている可能性が高い。早いうちから塾や知育教室などに通う。本人のプライドも高く、模試では上位にいることが当然。本人の意識が低かったり、親の干渉が強すぎて気持ちが萎えたり、空回りしたりしだすと危険。柔軟な進路決定を。</p>
B	<p>本人の意思優先！ 幸せ円満ファミリー 親は高学歴であることが多く、習いごと・塾なども視野に入っているが、何より本人の意思を尊重するためスロースタートになりやすい。公立中高一貫校や難関高校から有名国立大学に進学するケースも。友だちが多く、芸達者で朗らかな学級委員長タイプになる子もいる一方、学業に関しては後悔を残すケースも。</p>
C	<p>大切なのは楽しむこと！ 今を生きる仲良しファミリー サッカー、野球、水泳といったスポーツやピアノなどの音楽に家族全員が打ち込み、その経過をみんなで喜び合っていることが多い。勉強への関心は薄く、学校で真ん中より上にいれば……くらいに思っているが、中学後半くらいから成績に悩みだすケースも。子どもの能力を信じすぎて、成績がうまくいかないことを学校のせいにすることもある。バランスのよい生活の構築が大切。</p>
D	<p>人それぞれ！ 温かファミリー 親が教育に無関心というわけではないが、本人ががんばればいくらに思っている。友だちを大切に、習いごと、塾は控えめ。小学生なら公園で遊んだり、友だちの家でゲームをする時間が長い。小学校高学年くらいから成績に悩むケースもあるが、本人が奮起し、自分の意思で学業に励むケースもある。</p>

ねらい

家族のタイプを診断！
勉強への志向の強さと、親はじめ大人の子どもの干渉の強さで大きく4つのタイプに分類。
それぞれの良さや課題点を示しました。

やりかた

- 質問に答えて、あなたの家族のタイプを診断！
- どのタイプが正しい、ということはありません。でも、A～Dの類型は、子どもの勉強への態度でよく見受けられる4つのタイプ。自分の家族を見つめなおすきっかけになるかもしれません。